

ニュース 添付文書 薬の臨床実感&助言集

検索

QLifePro特集～医療の最前線を読む～

座談会 静脈血栓塞栓症 (VTE) 治療における地域連携への取り組み ―クリティカルパス作成とその運

疾患コントロール状況の把握に、麻疹コントロールテスト (UCT) 活用を

QLifePro > 医療ニュース > 医療 > 双極性障害、最善と考えられる薬剤治療について専門医の見解を公表 – 慶大ほか

双極性障害、最善と考えられる薬剤治療について専門医の見解を公表 – 慶大ほか

読了時間：約 2分12秒

2 いいね! シェア 0 LINE 送る ツイート

2020年06月25日 AM11:45

双極性障害患者のさまざまな症状ごとに、どの薬が最善か？

慶應義塾大学は6月24日、日本臨床精神神経薬理学会のガイドライン整備事業に参画し、双極性障害の治療におけるさまざまな場面に最善と考えられる薬剤治療について、同学会が認定する専門医の意見を公表した。この研究は、同大医学部精神・神経科学教室の内田裕之専任講師、櫻井準共同研究者らの研究グループによるもの。研究成果は、ワイリー社が発行する「Bipolar Disorders」オンライン版に掲載されている。

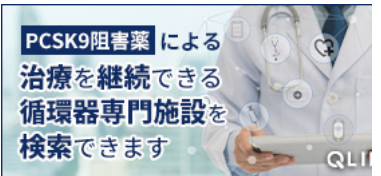


双極性障害は、日本において約1,000人に6人が一生の間にかかる病気とされ、気持ちの落ち込みや意欲の低下などがみられるうつ状態と、気分の高ぶりや興奮などに特徴づけられる躁状態をくりかえす。患者本人にとってうつ状態がただでなく、家族や身近にいる人たちにとっても激しい躁状態やふさぎこんだうつ状態の患者に接することは大きな負担となる。さらに、これらの症状によって社会的・

経済的な損失を被ることも多くみられ、適切な治療が重要となる。

日本臨床精神神経薬理学会認定専門医の意見をまとめる

双極性障害では薬を使った治療が中心だ。気分の変動を抑える気分安定薬、脳内ドーパミンの機能を抑える抗精神病薬、脳内セロトニン・ノルアドレナリンの働きを増強させる抗うつ薬、不安感や不眠症状を軽減させるベンゾジアゼピン系薬剤などが、単独もしくは併用して使われる。これらの薬の使い方は、国内・国外の診療ガイドラインで臨床試験の結果に基づく提言がなされている。しかし、臨床試験と実際の診療場面では少なからず設定の乖離があること、また、実際の診療場面で問題になる状況を想定した臨床試験が必ずしもないことから、診療ガイドラインの提言をそのまま実際の診療に用いることが適切であるかについては議論があった。



本日アクセスの多いニュース

細胞老化を防ぐ酵素「NSD2」を発見、そのはたらきの仕組みも解明 – 熊大

posted on 6月 25, 2020

「施設サービス利用」「自己負担1割」「都市部」が、介護費が高額となる要因に – 筑波大

posted on 6月 24, 2020

ヒト腸内フローラから、健康維持に貢献する機能をもつ新たな細菌群を発見 – 早大ほか

posted on 6月 25, 2020

薬局の慰労金支給対象外 – 加藤厚 労相「高リスク患者と接触せず」

posted on 6月 12, 2020

双極性障害、最善と考えられる薬剤治療について専門医の見解を公表 – 慶大ほか

が最善であるか、同学会が認定する専門医の意見をまとめた。

状態が変動しても「リチウム」中心に内服することを推奨

意見をまとめた結果、気分安定薬の一つであるリチウムの単独治療や、リチウムと抗精神病薬を組み合わせた併用療法が、双極性障害のさまざまな状態で広く第一選択として推奨されることが判明。一方で、抗精神病薬の単独治療や抗うつ薬はいずれの状態でも第一選択とならず、また、ベンゾジアゼピン系薬剤は頓服での使用や極力短い期間の処方推奨された。


双極性障害はうつ状態と躁状態という全く逆の状態が交互に現れるため、それぞれに対し薬剤治療をどのように変えるかについては、これまでも議論があった。今回の結果は、状態が変動しても、リチウムを中心に内服することを推奨するものだった。うつ状態と躁状態の違いにこだわらないリチウムによる治療は、現在の症状に対する短期的な効果や再発予防に有用なだけでなく、状態に合わせて薬が変わることによる混乱の回避にもつながるといえる。

今後、科学的な研究による検証が必要

研究グループは今回の総意について、「今後、科学的な研究によって検証することが必要であると考察している」と述べている。また、専門医の見識が双極性障害の患者とその担当医師に共有されることで、この疾患の一つ一つの状態において最善と考えられる薬が明らかになり、双極性障害に対するより良い診療の普及に貢献するものとする、としている。(QLifePro編集部)

▼関連リンク

- ・慶應義塾大学 プレスリリース

2 いいね! 0  ツイート

TimeLine: QLifePro編集部 , 双極性障害 , 慶應義塾大学 , 日本臨床精神神経薬理学会 , 獨協医科大学 , 診療ガイドライン , 関西医科大学

同じカテゴリーの記事

医療

- 細胞老化を防ぐ酵素「NSD2」を発見、そのはたらきの仕組みも解明 - 熊大
- ヒト腸内フローラから、健康維持に貢献する機能をもつ新たな細菌群を発見 - 早大ほか
- 神経線維腫症2型、初の免疫療法として「VEGFRワクチン」を開発 - 慶大
- 双極性障害、最善と考えられる薬剤治療について専門医の見解を発表 - 慶大ほか
- 自身と物体が同時に動くときに、脳が正しく動きを判断する仕組みを発見 - 京大ほか



医療ニュースランキング

- 18歳未満の知的発達障害者の新型コロナ感染による致死率が高い理由とは？
posted on 6月 18, 2020
- インフルエンザウイルス感染局所の炎症応答メカニズムを解明 - 東大医科研
posted on 6月 22, 2020
- 薬局の慰労金支給対象外 - 加藤厚労相「高リスク患者と接触せず」
posted on 6月 12, 2020
- 【厚労省】「アバスタチン」に動脈解離 - 添付文書の改訂を指示
posted on 6月 19, 2020
- 患者由来iPS細胞を用いた効率的なパーキンソン病治療薬探索システムを確立 - 順大
posted on 6月 19, 2020
- 卵子が、受精する精子を「選り好み」している可能性
posted on 6月 22, 2020
- ASDの原因となる大脳皮質グリア細胞の異常をIL-17Aが引き起こすことを発見 - 筑波大
posted on 6月 22, 2020
- 男性統合失調症患者のセロトニン関連遺伝子が高メチル化状態にあると判明 - 熊大ほか
posted on 6月 23, 2020
- 手術部位消毒薬オラネキシジンが術後感染リスクを半減、ヨウ素系消毒薬との比較で - 慶應大
posted on 6月 17, 2020
- 「光免疫療法」は近赤外線以外でもがんを破壊できる可能性、深部がん適用に期待 - 北大
posted on 5月 27, 2020